令和８年度（2026 年度）全国学力・学習状況調査結果報告

令和８年４～５月実施の「全国学力・学習状況調査」について、本校の調査結果をお知らせいたします。

□ 実施された国語・数学・理科に関して【区分及び領域】で概要を示しました。

□ 生活習慣や学習環境に関する調査につきましても、顕著なものを取り上げてまとめました。

□ 全国学力・学習状況調査　について、国立教育政策研究所ホームページも併せて御覧ください。

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html

本校の概要

全体的に良好な回答が多い設問

全国平均と比較して同程度または良好な回答が多い設問

□毎日、同じくらいの時刻に寝起きしている。
□自分にはよいところがある。
□先生は良いところを認めてくれる。
□将来の夢や目標をもっている。
□人が困っているときは進んで助けている。
□いじめはどんな理由があってもいけない。
□困りごと・不安がある時、先生や学校にいる大人にいつでも相談ができる。
□人の役に立つ人間になりたいと思う。
□友人関係に満足している。
□普段の生活の中で、幸せな気持ちになる。
□学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。
□PC・タブレットを使って、情報を整理することやプレゼンテーションを行うことができる。
□総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
□道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
□学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。

調査における課題

比較的良好な回答が低い

全国平均と比較して良好な回答が少ない

■朝食を毎日食べている生徒が、８割に満たない。
■学校や勉強のことについて家族と話すと答える生徒は、全国平均より低く、６割程度である。
■学校へ行くのは楽しいと思うと答える生徒が全国平均より低く、８割に満たない。
■学級で人と違う意見を言っても否定されないと思うと答える生徒は全国平均より低く、６割に満たない。
■平日に学習以外の用途でスマートフォン等を３時間以上使用する割合は全国平均よりも10%以上高く、６割を超える。
■分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することができると回答した生徒は、全国平均では８割に近かったが、本校では７割程度であった。
■学習以外の読書を全くしない生徒が４割程度いる。
■新聞を読んでいる生徒は全国平均より少し少ない程度だが、全く読まないという生徒は９割程度いる。
■国語・数学・英語の授業で学んだことが、将来社会に出たときに役立つと思うという回答は、国語・英語は全国平均より高い割合を示しているが、数学については全国平均よりやや低い数値である。

改善の方向

◇生活習慣の基本となる体調管理や、学習内容の充実等の側面として、日課の自己管理ができるようフォーサイト手帳の利用とその指導を今後も継続する。
◇教育相談の充実やシャボテンの活用を通じて、生徒が学校にいる大人に相談できる環境つくりに努める。
◇分からないことや詳しく知りたいこと・知ってほしいことなど、より知識を深め、考えを深められるように学校として学習方法の相談活動や環境・機会を作る。
◇読書は知識や教養が身に付くだけではなく、コミュニケーション力や想像力の向上につながるものである。朝読書の充実だけでなく図書専門委員会の活動を充実し、読書の活性化につなげたい。
◇各教科の授業では、知識の押し付けではなく、生徒が主体的に考え、社会や実生活に役立つ学びに繋がるよう計画する。
◇さっぽろっ子「学びのススメ」を参考に家庭での指導を啓発していく。

【中学校国語】

学力調査の結果概要及び改善の方向等について

本　校　の　概　要

全体の平均正答率は、全国平均とほぼ同程度である。

【領域】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

文脈に即して漢字を正しく使う問題について全国の平均と同程度だった。

「情報の扱い方に関する事項」

情報と情報の関係を読み取る問題において全国平均を上回っていた。

「話すこと・聞くこと」

目的に応じて集めた材料を整理し、伝えなう内容を検討する問題において、全国平均とほぼ同程度だった。

「書くこと」

段落の関係や、表現の効果を考えて描写する問題において全国平均とほぼ同程度だった。

「読むこと」

目的に応じて情報を要約したり、文章に基づいて自分の考えを確かなものにすることができるかという問題で全国平均を下回っていた。

今回の調査における課題

■話す聞く問題で、指示されている内容が何かを読み取る問題において、誤答が多くみられた。

■文章と図を結び付けて考える問題において、苦手意識を持っている生徒がみられた。

■文法の問題では全国平均を大きく上回る得点率であったが、ら抜き言葉の問題では誤答が多かった。

■漢字を文脈で使う問題について誤答が多かった。

■擬音語擬態語の使い方に関わる問題の正答率が低かった。

改　善　の　方　向

◇基本的な問題の正答率は高いものの、複雑な問題への対応に苦慮している様子があった。レポート課題などで、文章書くことへの苦手意識を減らしていく。

◇漢字や文法など、知識の問題について、実の場で積極的に用いるように指導をする。

◇対話の時間を増やし、協働な学びの場を設定することで、コミュニケーション能力を始めとした、話す聞く力を伸ばしていく。

分　類	区　分		全国との比較
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	○
		情報の扱い方に関する事項	◎
		我が国の言語文化に関する事項	設問なし
	思考力 判断力 表現力等	話すこと・聞くこと	○
		書くこと	○
		読むこと	△
問題形式	選択式		○
	短答式		○
	記述式		○
評価の観点	知識・技能		○
	思考・判断・表現		○

※＋3.1%以上＝上回っている　±３%＝ほぼ同程度　－3.1%以下＝下回っている

＝ ◎　で表示　　＝　○　で表示　　＝　△　で表示

しています。

【中学校数学】

学力調査の結果の概要及び改善の方向等について

本　校　の　概　要	今回の調査における課題	改　善　の　方　向

○全体の平均正答率は、全国平均より下回っている。

【領域】

「数と式」

○平均正答率は、全国平均と同程度である。

・事柄が成り立つ理由について、文字を使って表す方針を立てたり、数学的な表現を用いて説明したりする問題には課題がみられる。

「図形」

○平均正答率は、全国平均と同程度である。

・具体的な事象について、考察の対象となる要素（角、辺、三角形など）を的確に捉える問題や証明する事柄の仮定を見いだす問題には課題がみられる。

「関数」

○平均正答率は、全国平均より下回っている。

・与えられたグラフから、必要な情報を適切に読み取ったり、問題解決の方法を数学的に説明したりする問題については課題がみられた。

「データの活用」

○平均正答率は、全国平均を下回っている。

・累積相対度数分布表や箱ひげ図、度数分布多角形自体の読み取りに課題がみられた。

■［数と式］

事柄の特徴を数学的な表現で説明する記述式の問題に課題がみられ、苦手意識も影響し、無回答25％を占めた。

■［図形］

与えられた仮定をもとに数学的に適切な手順で、証明する問題に課題がみられる。

■［関数］

表におけるxの値とyの値の関係性やグラフにおけるx座標とy座標の関係など、ともなって変わる２つの数量の解釈と扱いに課題がみられた。

■［資料の活用］

累積相対度数や箱ひげ図の理解に課題がみられた。

◇数や式の性質を説明する基本的な手順の習得を図り、穴埋めなど安易な問題から復習に努める。

◇図形の性質を説明する基本的な手順の習得を図り、穴埋めなど安易な問題から復習に努める

◇問題解決のための計算など単なる技能の習得に留まらず、xのyの関係を的確に表現する力の控除に努める。

◇集団のデータを資料として作成する機会だけでなく、様々な数値や資料が表す数学的な意味を読み解く機会も増やし、理解や表現力の向上に努める。

分　類	区　分	全国との比較
学習指導要領の領域	数と式	○
	図形	○
	関数	△
	データの活用	△
問題形式	選択式	△
	短答式	△
	記述式	○
評価の観点	知識・技能	△
	思考・判断・表現	○

＋3.1％以上＝上回っている　＝ ◎ で表示

±３％＝ほぼ同程度　＝ ○ で表示

－3.1以下％＝下回っている　＝ △ で表示

しています。

【中学校英語】

学力調査の結果の概要及び改善の方向等について

本　校　の　概　要	今回の調査における課題	改　善　の　方　向

○全体の平均正答率は、全国平均より下回っている。

【領域】

「聞くこと」

○平均正答率は、全国平均より下回っている。特に、日常的な話題について、自分の置かれた状況から判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかを問う問題に課題が見られた。

「読むこと」

○平均正答率は、全国平均より下回っている。日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかについての問題で、全国平均を上回っている問題も見られた。

「話すこと」

○平均正答率は、全国平均より下回っている。日常的な話題について、事実や自分の考え気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかについての問題では、全国平均を上回っていた問題も見られた。

「書くこと」

○平均正答率は、全国平均より下回っている。特に、音声や語彙、表現、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを問う問題に課題が見られた。

■［聞くこと］

自分の置かれた状況などを判断しながら必要な情報を聞き取る力に課題が見られた。

■［読むこと］

全国平均を上回る問題はあったものの、自分の置かれた状況を判断しながら必要な情報を読み取る力に課題が見られた。

■［話すこと］

全国平均を上回る問題はあったものの、自分の考えや気持ちを整理しながらまとまりのある内容を話す問題に課題が見られた。

■［書くこと］

実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を問う問題で課題が見られた。

◇英語の音声を聞いて、聞き取り、読みをすることで、基礎的な英語を聞く力を伸ばしていく。

◇書かれている内容の概要を捉えながら、読むことができるように、全体像を問う問題に取り組ませていく。

◇対話の時間を増やし、協働的な学びの場を設定することで、コミュニケーション能力をはじめとした、聞く力を伸ばていく。

◇語彙や表現などの知識について、基礎的な学習により力を入れるとともに、場面を設定した対話活動などを積極的に用い、英語を声に出しながら使う場面を増やしていく。

分　類	区　分	全国との比較
学習指導要領の領域	聞くこと	△
	読むこと	△
	話すこと【やりとり】	△
	話すこと【発表】	△
	書くこと	△
問題形式	選択式	△
	短答式	△
	記述式	△
評価の観点	知識・技能	△
	思考・判断・表現	△

＋3.1%以上＝上回っている　＝ ◎ で表示

±３%＝ほぼ同程度　＝ ○ で表示

－3.1以下%＝下回っている　＝ △ で表示

しています。